

# 第14回 川崎市多摩川プラン推進会議

## 議事録

■開催日時：2014年（平成26年）2月24日（月）14：30～

■開催場所：川崎市役所第3庁舎18階 第1会議室

■出席者（敬称略）

委員長	進士 五十八	東京農業大学 名誉教授
副委員長	山道 省三	NPO法人多摩川センター代表理事
委員	斎藤 光正	NPO法人多摩川エコミュージアム代表理事
委員	佐藤 信雄	味の素株式会社
委員	畠山 義彦	富士通株式会社
委員	加藤 純一	市民公募
委員	北島 富美子	市民公募
委員	田上 祐二	国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所副所長（代理）

■議事録

### 1. 開会

### 2. 緑政部長あいさつ

### 3. 委員長あいさつ

### 4. 議事 —川崎市多摩川プランの推進について—

- (1) 平成25年度実施事業報告
- (2) 川崎市多摩川プランの改訂に向けて
- (3) NPO法人多摩川エコミュージアムからの報告
- (4) 意見交換
- (5) その他

以下、事務局による資料確認、説明

#### 「平成25年度実施事業報告」についての意見交換

（委員長）

- ・ 5ページのサインですが、20年度までで8基、25年度までに17基、9基25年度に作ったと言うことか。

（事務局）

- ・ 25年度は2基だけ、20年度前に9基です。

(委員長)

- ・ 20 年度前に出来ているのか。これは 20 年度前が書いてないから数が合わない。全部で 21 基あると言う意味か。

(事務局)

- ・ そうです。

(委員長)

- ・ それは伝わるようにした方が良い。年度を 21 から 24 まであげてあるのはややこしい。これは 25 年度のレポートでしょう。25 年度分を入れて、それ以前を含めて幾ら、とした方が良い。誰が担当になっても分かるようにした方が良い。
- ・ 6 ページのサクラ並木の数字、オオシマザクラをもらって、24 年度までに 29 本で、今年度 11 本、これもライオンズから貰うのか。植樹はしたのか。

(事務局)

- ・ ライオンズからです。植樹はこれからです。

(委員長)

- ・ この 3 月までにやるのか。

(事務局)

- ・ はい。

(委員長)

- ・ この報告書はいつ印刷するのか。2 月現在で出すのか。

(事務局)

- ・ そうです。

(委員長)

- ・ もし植えるのなら、植えたように書けば良いのでは。見込みで良いかもしれない。
- ・ 多摩川の土手の桜は川崎市域にどれ位あるのか。そう言うのがあれば『魅力満載』で出るのがいいかな。そう言うのがあれば、なにかの時に使える。
- ・ 何か質問ありますか。これは印刷しないので、WEB 上は出すのでしたっけ。

(事務局)

- ・ 一応いくばくか刷って。

(委員長)

- ・ そんな前提で見ると、デザインとか、データとか、色々な工夫とかご意見あれば。

(山道委員)

- ・ 9 ページまでの「多摩川を整備する」と 10 ページ以降、「多摩川を保全・活用する」、9 ページ以降ですが、活用形ばかりが多いのですが、保全系は無かったですか。環境学習会をやったとか、水辺の学校をやったとか、色々ありますが、これらは活用系ですか。

(事務局)

- ・ 環境学習やることで、知識を深め、川を守ろうとか、干潟を守ろうとか、という事に繋がるのかなと。

(委員長)

- ・ 再生と言うのはあるけど、保全活用と言うのは、昔で言うと、柵で囲っておくとか、そういうのが保全活用だったので。保全と言うのは概念的に理解するが。何もしない所は保全され

ているのだな。壊されてなければ。壊されすぎていけば、デストレーションしなければいけないから、再生とか復元とか言うのだな。例えば、生物多様性を上げるために、植樹するとかね、山ならね。川は植えてはいけないし。

(畠山委員)

- ・ 9ページの「緑地の維持管理」の草むらを刈り残した、というのも保全だと思うので、全部刈った写真を入れるよりは、一部刈り残した写真を載せれば、保全に取り組んでいるのだな、と見えるのではないか。

(委員長)

- ・ 今のは整備に入ってくるのではないか。

(事務局)

- ・ グランドの維持管理という観点で言えば整備だが、保全にも入ってくる事ではある。

(委員長)

- ・ 丁寧に保全活用と、きちんと別れるものじゃないのだから、どういう思想で市が取り組んでいるかと言う事でしょうね。少なくとも保全と活用は一体的に考えていると言う事を共通理解にしておけば良いのではないか。
- ・ 冒頭の地図は色がみんな同じか。地名で入っているのだから。後ろへ出てくる地名が目次に出ているのか。これは何なのか。

(事務局)

- ・ これは市が占有している多摩川緑地の名前です。目次とはリンクしていません。

(委員長)

- ・ 市が占有許可取っている場所の地名か。施設名と地名が混ざっているのか。占有許可取っている場所と言うのなら、その旨を書いて下さい。色を変えておいたら良いのではないか。

(事務局)

- ・ 地名と施設名の色を変えてみるとか。

(委員長)

- ・ 地名は何のためかピンと来ない。全部多摩川緑地？占有許可取っているのか。

(事務局)

- ・ 多摩川緑地のなかで何々地区と言う形になっている。大体どこにあるか分かるような形で橋や線路の名前を書き入れている。

(委員長)

- ・ だから、3種類なら3種類、単に座標軸で橋や線路名が入っているのなら、それで良いし、施設名、地区名で色付けすれば良いのではないか。
- ・ 目次は「p.」はいらない。
- ・ それから多摩川位置図も要らないのでは。

(山道委員)

- ・ これは却って解かりづらくなるのではないですかね。

(委員長)

- ・ つまらない意見だが、私はいつも地方で話す時にも川崎は多摩川の先だとアピールしているのだけれども。川崎がなぜ多摩川プランを占有しているのか。本当は、世田谷や大田区も言わなきゃいけない訳だから、優先権があるような顔をしてるのは、川崎って地名は多摩川の

先だから、と言う事を言っている。

- ・ 川崎にとっては、そういう事でいばれるのだと言う事で。そう言うのをアピールしたらどうだろうか。京浜河川事務所は怒るかもしれないが、でも語源がそうだって言うのは良いよね。

(山道委員)

- ・ デルタが作ったのだと言う言い方と、江戸から見たら川の先だという話と、京都から見たら別なのですよね。

(委員長)

- ・ その場合は先じゃないのではないかな。京都から上り下りは無いのではないかな。

(山道委員)

- ・ だからデルタの意味であろう。上から土砂が流れて来て、と言う意味であろう。

(委員長)

- ・ 地先の先と違うから、これは地形の崎。

(事務局)

- ・ 多摩川プランの冊子の『はじめに』に記載しております。

(委員長)

- ・ 川崎だろ。山崎と言うのがあろう。『さき』って言うのはとんがった『さき』ではないのか。いずれにしても多摩川のさきに拠点がある町だと言うふうだね、良いのでしょうか、だから母なる川という事ではなくて、多摩川はそういう由来があって、多摩川プランを作っているのだという事を、アピールしたらどうかと言うのが私の意見である。そう言う事が伝わっていない。川崎という地名と多摩川が繋がるという認識はあまり無い。さっきの瀋陽だか工業都市だかの姉妹都市も、川崎と言うのは工業都市、煙の都、公害の都、そのイメージの方が普及している。全国区で多摩川と関係していない。少なくとも川崎市民は、川崎と言う地名はそこから来ていると言う事を常識のように知っている。そうしたらどうですか。多摩川の話をするれば、世田谷も多摩川の話をするし、東京都の景観基本計画でも多摩川景観基本軸としたし。全国区の川なのだよ、なんで川崎だけ、自分の川みたいな事言っているのだと、普通なら言われるでしょう。地元としては、そのくらい自分のものだと思っている、と言うのを。後、中身でいかがですか。

(山道委員)

- ・ 3ページの多摩川交流センターの開設の話は、河川財団が管理していて、ビジターセンターみたいな物を作ると言う事なのですが、これは情報センターみたいな意味合いなのですが、ここの建設に当たっては何か協力はされたのですか。

(事務局)

- ・ 隣接してみゆき公園みたいなものがありますので、公園と多摩川交流センターの位置の取り方について、協議をしたり、掲示板など写真があるのですが、情報掲示板を置きましょうとか、財団と行なっています。

(山道委員)

- ・ パネルなんかは、川崎市が協力をされたのか。

(事務局)

- ・ そうですね。行政なので。国土交通省もいる。

(山道委員)

- ・ どういう中身なのか。

(田上委員)

- ・ もともとスーパーになっていて、その跡地をどうやって利用するかで交渉して、川崎市としては財団の方でそこに、ゴルフ場の受け付けだけにするとまずいから、交流センターにして。両方にすると、いろんな人がトイレとかに使えると、多摩川のいろんな利用情報の発信基地になって。もともと全部を財団さんがお金出している。

(山道委員)

- ・ このプランの中に位置付けて、川崎市が協力して、そういう位置付けで、プランの中にこれが入っていると。

(委員長)

- ・ よそのやつ持って来たのでは、という事か。

(事務局)

- ・ それに近いものがある。

(田上委員)

- ・ そこら辺の書きぶりもどうなのかな、と言う感じ。まあその他の所が良いのじゃないかな。

(山道委員)

- ・ こういうのが出来ましたと言うなら良いけどね。プランの中でこういう物を完成させた、という事になるのかどうか、当初のプランから言うと。

(田上委員)

- ・ 併せて情報発信の展示と、パネル展示と言う形で行く。

(委員長)

- ・ 交流センターで情報発信に協力とか参加とかすれば。「センター開設」とすると、主体になってしまう。

(山道委員)

- ・ プランに入れると、プラン通りに完成された、みたいなイメージに取られるかな、と思う。

(委員長)

- ・ 球場の方は河川財団さんで移管、と言うのは、川崎市が移管を受けたと言う事なのか。

(事務局)

- ・ 4月1日に移管を受けるという事で進めております。

(委員長)

- ・ これ主語が無いな。河川財団3球場の移管を受けて市が管理を始めたのか。

(事務局)

- ・ 始めます、と言う事です。

(委員長)

- ・ 今のような話、全部見直した方がいいね、これ市の仕事だから。それから、分かるようにね、移管と言うのは、「移管を受けた」と言う事でしょう。

(事務局)

- ・ そうです。

(山道委員)

- ・ それは河川管理上、有り得ないのでは。

(田上委員)

- ・ それは名称変更だから良いのですよ。

(事務局)

- ・ 譲渡です。

(山道委員)

- ・ 河川管理者が認めればそれで良いのか。

(事務局)

- ・ 申請を出している所です。

(委員長)

- ・ ここではそうではなくて、市民が見た時にね、河川財団と言う固有名詞はあるのだけれど、ようするに、川崎市民のための球場って言う事か。

(事務局)

- ・ そうです。

(委員長)

- ・ 市民には利用させないのか。

(事務局)

- ・ そんな事は無いです。抽選に市民が最初に参加出来るという事です。

(委員長)

- ・ 抽選？世田谷区民は出来ないのか。

(事務局)

- ・ 世田谷区民は一応抽選終わった後に。

(委員長)

- ・ 優先権があるのか。やっぱり市が主体なのだな。そういうことが分かったほうが良いのではないか。

(齊藤委員)

- ・ 川崎市が抽選の時、優先で、空いていたら他が取るのか。

(事務局)

- ・ そうですね。

(齊藤委員)

- ・ 市民館や何かも色々な所から取りに来るから、川崎市の人は使っていない。使えない時が多い。そういうクレームが良く来ている。野球もそうじゃないかと言われた。

(委員長)

- ・ じゃあこれは市民にとってすごく喜ばしい事なのだ。じゃあ、そういう情報入れないと。河川財団の場合は全国区でやっているわけでしょ

(事務局)

- ・ そうです。誰でもOKなのです。今度カード作りますので、川崎市在住在勤の方の。

(委員長)

- ・ それは財団として文句は無いのか。

(事務局)

- ・ 基本的には地域の自治体の方で、川崎は川崎、世田谷は世田谷のルールでやると。

(委員長)

- ・ 向こうは向こうでやっているわけか。
- ・ いずれにしても川崎市がやっている多摩川プランだから、主体との関係で目次とか、見出しを解かり易くしてください。

(齊藤委員)

- ・ 10 ページの「環境学習の実施」ですが、できれば私の方で、4月から1月までに何校来たか、人員が何名くらいか、それを出しておきたい。ちょっと数字が違う。これ以外にフリーで来た人がいっぱい居る。それがカウントの対象にならない。せせらぎ館は散策ついでに寄っていく、そして、すぐどっか行ってしまう。

(委員長)

- ・ それは、その他 500 くらいとか書いた方が良い。

(齊藤委員)

- ・ 一応、掴んではいる。団体で来た人たちは記録がありますから。

(委員長)

- ・ 学校名を入れたら良いのでは。

(齊藤委員)

- ・ 調べれば。入れても差し支えなければ。

(委員長)

- ・ これは白書らしく作ってはいるが、データをもうちょっと比較したり、将来のために、公共政策から見て、河川と言う環境を市民に身近な物になるように、どんな政策が打たれて来たか、と言う時に、分析する。これでは大雑把過ぎてダメだ。固有名詞があつて学校名が入っていれば、学校と河川の距離が何百mだとか、そういうマッピングすると分かる。そういうことが大事。そうやって政策は進歩する。回数と人数とか、ラフに書いています、と言うだけで。見易く出来ていると思うが、毎年進歩していると思うが、もう一歩別の目で見ると、それがあつた方が良い。個人情報に困ると思うが。もう一つは、校長が多摩川のそばにある学校なのにうちの名前が出てないのはまずいな、と校長が気が付かないとだめだ。そのためにも、回数たくさん来ているとか、違う訳だから。いずれは 10 周年とかには、がんばった学校は表彰してあげるべき。それから、固有名詞は役所の書類には入れないものなのだけど、頑張った人は書いたら良い。

(齊藤委員)

- ・ 一応、こういう情報誌は各学校に配って来年是非お使い下さい、という PR をしようと思っています。

(委員長)

- ・ 齊藤さんたちの活動は多摩川プランとは関係ないのか。

(齊藤委員)

- ・ これは関係ないです。

(委員長)

- ・ だけど、こちらの事業に協力してもらって、繋がって行くとかはないのか。

(事務局)

- ・ 館の運営をエコミュージアムさんにお任せして、館の運営費の中で情報誌を作ってもらっています。

(委員長)

- ・ 今言っているのは、多摩川を理解すると言う所に、「情報発信拠点の充実」にあたるのか。さっきの齊藤さんの説明が良かったと思うので、多摩川情報誌がね、本当はこれは多摩川プランが広く 145 万人川崎市民の手元に届くには市の広報と一緒に各戸配布されるべき。しかし、金が無い。だから、これは「多摩エコ」の編集だから無理なのだよ、だからここに「協力：多摩川推進課」と書けば、多摩川プランの費用を入れて、編集その他はこちらでおやりになったけど、これを買って、全戸配布する。そうすれば多摩川で色んなこと起きていることを、市民が理解しやすい。

(事務局)

- ・ 「多摩エコ」は川崎市の予算で作って頂いている。

(齊藤委員)

- ・ せせらぎ館の予算の中で作ってもらっています。

(事務局)

- ・ こちらが市民活動の関係で予算とってます。

(委員長)

- ・ これは全戸配布しているのか。

(事務局)

- ・ 全戸配布していません。ここについてはHPで。

(委員長)

- ・ だから、それを言っているのだよ。

(事務局)

- ・ 配布するほどの予算は取れない。

(委員長)

- ・ 考えもしないでなんで取れないのだ。広報効果って一番大事なのだよ。多摩川で色々やっているけど伝わらない、モノクロだったら汚くて誰も持って行かない。これは持って行く冊子か、持って行きそうである。ここまで来たら、せっかくボランティアで頑張ってるのに。本当は齊藤さんのためには、編集費を出してやれ、と言うのが自分の立場なのだけ。

(齊藤委員)

- ・ もっとたくさん配布したいならもっと予算が掛かりますよ。

(委員長)

- ・ 言いたかったのは、努力した編集委員だって、ライターだって、みんなに配布されると思えば頑張れる。

(齊藤委員)

- ・ みんなボランティアで頑張っているのも『いいぞ!』『いいぞ!』と言われるから。

(委員長)

- ・ 配布するときは新聞社にお金出すのか。全戸配布だと相当金掛かるか。どれ位掛かるのか。



(事務局)

- ・ 市政だよりについても、町会を通して助成金出して配布してもらいますし、新聞折り込みも月一回ありまして。具体的には調べてないです。他の課がやっておりますので。それが年24回です。

(委員長)

- ・ 以前、鎌倉市がNPO支援と言う事で、育成と言う事を考えてね、ニューズレターを市に持って行くとね、料金別納のハンコを押してくれる。郵送料は全部市が持つ。市民グループが行なっている機関紙なのに。広報が広く鎌倉市民の活動が全国区に広がるのを支援している。市民の自主的な活動を行政が支援するというのは。事業費出すとか言うのは、金よこせていう人がいっぱい居るから、頑張ったものは応援する、団体に行く訳ではないからね、郵便代を払うと言うのはね。例えばですけれどね、今後の課題かもしれないけど。齊藤さん自慢するだけあって見易い、良い編集されていますよ。いろいろな字体使って。環境学習のやつは手書きの物を用いたり、飽きさせない努力をしている。これだけのセンスがあれば、全戸配布しても悪くないなど。

(山道委員)

- ・ 4ページの半分白紙になっているから、これ膨らましたらどうですか。バーベキューの展示を1ページ使っているから、せつかく白紙の部分があるから。

(委員長)

- ・ 極端に言えば、93号、一例でスキャンして入れても良い位。別に印刷たくさんする訳じゃないので。これだって記録だ。

(加藤委員)

- ・ 7ページのバーベキューの件で、以前意見に反映して頂いたのかな、とうれしく思ったのですが、人数の所が、増えていますよ、と載っているのですが、翻って、全体でみると、2~3ページのニヶ領のせせらぎ館と大師の件とか、多摩川の件は別だと思えるのですけれども、この2つについて利用者数と言うのが18,500人とか、12,000人とか書いてあるのですけれども、こちらの方では年度の推移とか増えていますよとか無いので、前回も言ったと思いますが、数字と言うのは増えているのか、横ばいなのか、是非入れた方が、表にして比較を。最低3年位の表にすれば増減が分かるので、その方が成果があった事が見えると思う。数字はなるべくオープンにして、少ないのであれば、課題として、年度持ち越すスタイルの方が、他もあるかもしれませんので、初めて見る市民も居ると思うので、見た時に去年のは知らない、一昨年も知らないけれども、伸びているのだ、ということが分かると思うので、それをお願いしたいのが一つと、2ページと3ページの施設なのですが、多摩川を理解するというページに含まれているので、こういう施設があったなど、ここに関わっているのだと思うのですけれども、セミナーであるとかイベントであるとか、全然わからない。情報発信として今後どういう風にやるのか、例えば、18,500人と言うのが多いか少ないか分からない。例えばゴール的に市、多摩川プランで、ニヶ領のせせらぎ館は立ち寄ってもらっても、10万人を目標にしていますとか、ゴールはあるのでしょうか。例えば、10年前5年前に5万人だったけれども、減少しているので、5万人に戻したいとか、そういう目標値はあるのでしょうか。書く必要は無いのですけれども、参考までに聴きたい。

(事務局)

- ・ 目標値は無いです。季節、天候、イベントの有無で、年度によって増減します。

(加藤委員)

- ・ 市民の税金でやっているものなので、イベントの回数の比較であるとか、人数の部分だけでも目標値が無いにしても、比較が出来ると思うのではと思う。ただ、個人として思うのは、市民宛にメールで、こういうセミナーがあるからどうか、広報宣伝とか無いのかな、と思う。

(山道委員)

- ・ 田中さんのオリジナルと思うが、年間 100 万人記念って、やった事があるのでは。

(齊藤委員)

- ・ 目標値と言うか、なにしろ増やそう増やそうと言う事であって、一応それは掲げた方がいいのかな、と思って。去年より 1 割増しとか 5 割増しとかね。

(加藤委員)

- ・ 例えば、多摩川プランで、ニヶ領のこの会館はこれ位マストで行けるはずなのだけれども、と言うのが無い所で、ただ数字だけ年間で出て来て、多いのか少ないのかも解からない。それがあつたほうが、話がし易い。

(齊藤委員)

- ・ 18,500 人と言うのは、館の中に入ってきた数で、館の前を通った人、自転車の人、土手を散歩の人、河原に遊びに行く人は入ってない。そういう人入れると、ものすごい数になる。

(加藤委員)

- ・ それは関係ない。入場者と言う事で。それが前年比とかが分かると、市民の方も多くなっている、広がっている、宣伝の効果ある、とか解かると思うので。それが一つと、資料編で 5 ページのサイクリングコースの実態の所で、アンケート採って、自転車乗っている人に、10 月にやつたと、これはまた総数が無いので、それを入れた方が良いのでは。他のページで見ると、7 ページのバーベキューのページでは、全部で 161 人いて、パーセンテージと人数が混在している。この辺のルールを決めてもらって、個別のところでも大幅に悪化している 6 人、3.7%、たぶん 6 人は要らなくて、総数とパーセンテージで、人数は N 数で右下に、全部で 161 人で良いと思うのですけれども、そういう観点で言うと、5 ページのサイクリングコースの所も、一応 N 数を取っておいた方が良いのでは無いかなと思いますので、出典をしっかりとって頂きたい。7 ページのバーベキューの所は、アンケートの問いが解からない。まず問いを書いておいた方が良い。書かないとまずい。

(委員長)

- ・ 社会実験以前と指定管理者入れてからの比較なのか。

(事務局)

- ・ そうです。毎年アンケート調査を行っており、前年度と言う事です。同じ地区にアンケート取っています。

(委員長)

- ・ では加藤さん言うように、前年度と比較しての変化という事は、大事な事だと思う。当たり前前の事。まず N を入れるという事、それ以前に、例えば、7 ページの円グラフは字が小さくて見えない。引き出して書いているのは「大幅に悪化している」「やや悪化している」それ

だけを引き出して書いてあるから、全部悪化しているのかと思った。「改善している」の方が圧倒的に多いでしょう。これは普通逆だ。色の使い方もそう。改善を暖色系、否定的な方を寒色でやる。段々ひどいのは濃くする。そういう所は作図の常識。つまりグラフは何のためにやっているのか、どんどん改善され良くなっている、そういう事が解かしてもらいたくてやっている。ただ結果をグラフ化するという事ではない。市民に行政努力を認めてもらうためのグラフ。調査結果をただグラフ化するというのではない。だからタイトルも「バーベキュー問題の解決」でしょう。問題を解決しつつあるよって言っている訳でしょう。「バーベキュー問題の解決」はもう古いなあ、と思っている。もっと積極的にこれをどうするか、が次の課題。ひどかったから改善した、で解決した、でこれは良い訳でしょう、8割位改善なのでしょう。バーベキュー問題は関与して良かったと、ほったらかしになっていた訳だから、それを指定管理者を入れてやった訳だから。更にアンケートをやるなら何を求めているのか、河原に来て楽しむことは悪い事じゃない、環境破壊しなければ良い訳だから。加藤さんの指摘の最も大事な事は、多摩川プランを作った事によって、市民のライフスタイルが少し変わって来て、多摩川と言う空間に市民が出てくれるようになった。これが一番大きい。延べ人数で良い。多摩川プランの課があると言う事は、多摩川プランを作った事によって、これまで無縁であった145万の川崎市民が川と深い関係を持つようになって、子供にとって環境体験だし、大人にとってレクリエーションだし、多摩川に対する知識を増やしたり、精神的な事言うと、多摩川は自分たちの川だ、と思うようになった。直接アクセスした人も大事だし、何となく思うようになったと言うだけでも意味がある。その段階おいてどの位なのか。昔は99%の市民が無関心だった、今や半分近い市民が多摩川を意識するようになった。市民意識調査があるでしょう。ああいう所申し込んで、多摩川プランのあった今、10年前と今、多摩川とどういう付き合いをしているか、たまには行った事がある、多摩川で色んな事やっている位は知っている、そういう段階別の意識調査をやった多摩川プランができる前と後で、これだけ違くと、しかも良い方へ行っている、それを出さないと駄目。これが一番大事な行政の仕事。トータルに見て、多摩川に興味あるのは1割位だったのが2割になったとか、そういう理解を担当者が持たないと。アンケート調査の様子なんて知らない。後ろ向いているから、何者か分からないし。この数字は調査したものですと言いたいのだろうけど。

(山道委員)

- このアンケートは推進会議が主催してやったアンケートですか。

(事務局)

- 多摩川プランのサイクリングコースの整備と言う、その中で。

(山道委員)

- 要は迷惑行為の低減に努めていますとか、表現が曖昧なのだが、アンケートの結果改善されている、それは良い。もっと詳しくどっかに解説した方が良い。どう改善して行くかと言う事をハッキリさせるために、深い課題として残っている物は、たぶん幾つかあるだろうと思う。例えば、酔っ払いが喧嘩始めたとか、ボヤがどうだ、油が川に流されてどうだ、結構あるような気がする。だからもっと詳しく、さっきの設問もそうだが。

(委員長)

- バーベキューの問題は、大阪なんかでもあって、全国的に関心のある事。だから川崎でのチャレンジをビフォーアフターでデータ化しておいて、マスコミに提供するのは意味がある。

- ・ サイクリングの場合は、自転車と言うのは歩行者なのですか。

(事務局)

- ・ サイクリング道は、自転車歩行者道です。

(委員長)

- ・ 自転車に乗っている人と歩いている人と言う意味か。

(事務局)

- ・ そうです。これは「自転車・歩行者」です。

(委員長)

- ・ 走行速度調査は、自転車の場合か。

(事務局)

- ・ 自転車です。

(委員長)

- ・ 多摩川プランと言うのは、極めて珍しい訳です。大河川を対象に推進課まで設けてやっているというのは、川崎の独自の政策な訳です。川崎は全区が多摩川に面している、川崎にとって特有な関係のある川。当然かもしれないが、河川をこれだけ丁寧にやって来たというのは自治体行政としては評価されて良い。それにはちゃんとしたデータがいる、そうしないと説得力が無い。行政需要は非常に多い。その中に、多摩川の問題がこれだけ大きく位置付けられたと言う事は特筆すべき事である。それを自信を持って言えるようにデータで押さえておく。行政は理解しているからだろうけれども、それはラウンドナンバーが良いのですよ、5000とか50000とか。だから齊藤さんの所もちゃんと入れて、多摩川に直接働きかけないでも、せせらぎ館にふらっと寄るだけでも良いじゃない。すごい意味がある。大きく言うと市民の何%位なるとか、川崎っ子と言われるように徐々に進んでいます。川崎で公立小中学校行つて、多摩川の河川敷行つた事無い子は居ません、とかね。まだ居ますでしょうね。

(齊藤委員)

- ・ 親が多摩川に行くなという教育を受けているから、子供と一緒に多摩川行こうよ、とはならない。だから学校でやるしかない。総合学習で多摩川へ来た子供は、おじいちゃんおばあちゃんともう一回来る。おじいちゃん、おばあちゃんが昔はこうだったと言う、すごいと言って、感心している。次にはお父さんお母さんを連れていらっしやい、と言っている。お父さんお母さんの時代は「汚い川へ行くな」と言う時代だった。

(委員長)

- ・ いかにも教育が怖い。そういう事是非、全体像を持ちながら、ディテールを見て。

(畠山委員)

- ・ 全ての事についてですが、何のためにそれを設置したかと言う目的を書かれた方が、その目的を達成出来ていないので問題点がある訳で、特にバーベキュー問題は、知らない人はバーベキュー問題って何なのだ、と言う話で、そもそも、なんでバーベキュー場があるの、という事を解説しないと、全く知らない人にとっては市民のふれあいのための物なんだろうけれども、私も良く理解出来てなかったが、よく読むと、騒音・生ごみ等の問題があるという事が後の方で分かる形なので、そもそも、なぜバーベキュー広場を設置して楽しんでもらうために設置したのだけれども、使い方に問題があつて、こういう問題が発生している、については状況を調査しました、と言う流れでないと、うまくない。サイクリングコースにしても、

市民が快適に利用できるようにというのがありますが、そもそも何のためにあるのかという事について、市民のスポーツ振興のためにという事で。球場も移管されたとありますが、そもそもなんのために球場を引っ越して維持していくのか、と言う目的を書かれた方が良いと思う。知っている人を前提で書かれているみたいで。

(委員長)

- ・ おそらく、事務局は「多摩川プラン」に書いてありますと思っている。だから、今これだけを読む人がいるから、ちょっとポイントを押さえて、1行入れてやるとずいぶん違う。

(佐藤委員)

- ・ バーベキューの所ですが、駅の周辺の様子ですが、これは指定管理者の方がやっているのでしょうか。指定管理者によるとか、これは誰がやっているのかを入れてくれると。もしかすると、まちぐるみでやってくれたり、この方々がやってくれているのだ、という事でPRしても良いのかなあ、と。あと文章の中でも『改善されている』というのが多く占めている。そうすると、どういう問題だったのかと言う所で、改善がなされているよという所も入れて頂いている方が良くかなと思います。あとソーラーパネルというのはこの1基だけなのですか。この1基は活用されているのですか。結構高いですよ、これ。これしまつとくのですかね。

(事務局)

- ・ これは移動式です。しまつてきちんと管理しています。いたずらとかは無いです。

(委員長)

- ・ これは指定管理者が持っているのか。市が持っているのか。貸しているのか。

(事務局)

- ・ 市が持っていて、貸しています。

(山道委員)

- ・ 何の電気を使うのですか。

(事務局)

- ・ 放送施設、パソコン、携帯電話、無線、夜間照明です。結構重宝はしています。

(佐藤委員)

- ・ 重宝しているようであれば、少し広げていく事もあるのですか。

(事務局)

- ・ 現在、管理小屋の電源が取れば十分だという事です。

(北島委員)

- ・ これで全部ですか、いくらもないようですけど。

(事務局)

- ・ テスト的にという事らしいです。

(委員長)

- ・ 二畳くらいなのか。これで設備費いくらなのか。

(事務局)

- ・ 300万円です。

(委員長)

- ・ まだそんなに高いのか。

(佐藤委員)

- ・ あと下の所の表記が、BBQ とバーベキューとあるんですが、統一しといたほうが良いと思います。

(委員長)

- ・ バーベキュー問題はこの記事の書き方だけじゃなくて、迷惑行為の低減に努めていますとあるが、迷惑行為の苦情はまだ多いのか。

(事務局)

- ・ 当初から反対されていた方はまだ反対されています。またこれだけの入場者数があると、ゴミ問題だけでなく、路上でのたむろの問題とかも有ります。

(委員長)

- ・ この一か所だからか。他には適地は無いのか。

(事務局)

- ・ ここに絞っていますので。ここには入れなかった人、近くでやりたい人は勝手にやっている状況である。

(委員長)

- ・ ここはあんまりお金取っていないのか。

(事務局)

- ・ 500 円です。

(委員長)

- ・ それを千円にすれば減るのか。

(事務局)

- ・ タダのところに行くと思います。そこで、丸子橋周辺の問題がクローズアップされています。

(佐藤委員)

- ・ 先ほど先生が言われたように、今後はこういう風に県とか市とかに、同様の問題が出てくるので、先駆けての部分は、これを解決して、結構来て頂いて、自然破壊もしないで、市民とマッチングしながらやっていく事例としては、提供出来る所がある。こういう風に解決したから、こうやるとスムーズにいけるよ、とか、環境を保護しながら、皆さん楽しんでもらえるよ、と言う事例として提供出来れば、良いかもしれない。

(山道委員)

- ・ 後は、指定管理者は株式会社だから営利事業をやっている、多摩川を使って収益を上げたものを、還元するような仕組みという所まで含めてね。

(委員長)

- ・ 当初そういう議論したけど。

(事務局)

- ・ 徐々にやっています。地元商店会とか町会、小学校と連携を取って、指定管理者がお金を取って環境教育を行っている。

(委員長)

- ・ それを入れないとだめだ。なんでそれ入れないのか。

(事務局)

- ・ 先週やったばかりで。

(委員長)

- ・ それは大事なのだ。低減に努めていますと言うのは、まだ苦情の中に居るように見えてしまうので。やっぱりバーベキューはニーズある。バーベキューは庭園の施設なのです。個人庭園のデザインの時はバーベキューの炉を入れるもの。普通である。だんだん洋風化して暮らしぶりが変わったり。今はシカを獲らないといけなくて、ジビエとか出て来るでしょう、これ食べないといけないでしょう、自然保護のためにシカ食べるためにはバーベキューなのだ。環境とはそうやって全部繋がっているのだよ、海から山まで。そういう観点でいかないと、苦情が出たからやり始めたって感じたけれども、もうちょっと積極的に評価したり、データが取れたらすぐ入れたり、チャレンジをしている事を見せないと。

(北島委員)

- ・ 多摩川にもっと馴染む事が必要になるのだろうか、と思う。わりとちょこちょこ、せせらぎ館に季節毎に行くのですが、桜の時期とかあればね、あと音楽会とかやるから機関紙ですか、それをみんなに配るのは大変かもしれない、年に何回かでも、もっと馴染んでもらうのが大事だと思うのと、たぶんセクション毎に考えていると思うんですが、災害との関わりで、学習の所で入っているのかも知れませんが、災害時の多摩川、防災機能ですか、向こう側に逃げるとか、向こう側の人はこちらに来るとか。

(委員長)

- ・ 防災の話は多摩川プランにあったよね。

(事務局)

- ・ 広域避難場所にはなっているのですが、東日本大震災の後で京浜河川事務所の方で、スーパー堤防とか高潮堤防の整備を行っています。

(委員長)

- ・ 広域避難場所としては認めているのでしよう。

(事務局)

- ・ 認めています。

(田上委員)

- ・ 津波の関係で避難場所になっていたのが、かなり変わって来ているはず。

(委員長)

- ・ それは津波の時ね。

(北島委員)

- ・ 津波の時はかなり奥まで来ると言う歴史的な物もある。そのマイナスな事もあるのですが、助かる時のためにも多摩川に馴染んでいる事が大事だと思う。そう思うと、エコミュージアムのニュースもみんなに馴染んでもらえると良いのかなあと。

(委員長)

- ・ 世田谷はなにかの時には井戸が使えるようになっているけれども、多摩川の水は簡易浄化で飲めるようにするとか、そういうのは考えているものか、市の防災計画では。

(北島委員)

- ・ 浄水場があってそれが見直されている。

(委員長)

- ・ 多摩川の水は浄化すれば飲めるような水質でしょう。

(山道委員)

- ・ 浄化の程度によるとと思いますが、普通に飲めますよ、臭いですが。

(田上委員)

- ・ 多摩川の水は下水処理しているものが殆どですよ。BOD が 1.2 とかその位ですから、BOD からいくと問題は無い。その代わり大腸菌が。沸かせばね。

(委員長)

- ・ 川崎は堤内地側に井戸があって大丈夫なのだ、防災計画上は。

(北島委員)

- ・ 浄水場があって見直されて大丈夫と言う風に言われていますよね。遊ぶとか楽しむだけじゃなくてそういう事も大事な、と。

(委員長)

- ・ 今特にそういう感覚が重要ですね。

(山道委員)

- ・ 避難地は大震災の時の避難地、という設定ですか。

(事務局)

- ・ 火災です。

(山道委員)

- ・ 国交省は津波の心配とかあるでしょうけれど、市はああいう緑地の避難地としての指定は応援しているんですか。

(事務局)

- ・ しないです。

(北島委員)

- ・ 神戸の震災の時に川がすごく使われた。街中が火事で通れなかった、一時的にあそこの空間に避難した、水が流れていたのを洗濯したり、風呂沸かししたりした人が多い、あるいは通路ね。あれはすごく役に立った。

(委員長)

- ・ 北島さん言っているの、それだよ。まあ河川管理者は国だから自治体で頑張りなさい、という事だよ。

(田上委員)

- ・ 津波の時はダメになったけど、通常は洪水とか無ければ、みんな逃げますよね。出来るだけ公園とか高台とかに逃げてくださいというのが、今の考え方になって来ている。

(委員長)

- ・ 幕張の液状化のような事は起こらないでしょう、砂利だから。

(田上委員)

- ・ 多摩川は大丈夫ですが、鶴見の方になりますと砂っ気があるので。

(委員長)

- ・ 次の見直しの時に大事な事は、今の防災上の問題は非常に大きなテーマだと思いますね。それから生物多様性の話ね。それから河川沿いにやたら超高層が出来そうなので、地価も比較的安いしね、景観対策を今からね、どこの部分だけは押さえるとかね、全部は押さえきれな



いけれどね、少し考えとかないと、まずいだらう。川沿いに、ずっとこの間の高層マンションが並んじやうとぞっとするから。川の持っている環境効果、大気の拡散とか、防災効果とか考えたときに、隣にあんなでかいのがあるとなにか危なっかしいでしょ、世田谷の二子玉川公園みたいに河川沿いに、ドイツのラインパークなんて、ライン川沿いずっと公園なのだ。多摩川なんてそういう川だよ、そこが河川行政は河川行政、自治体はそういう発想は無かったからね。

(山道委員)

- ・ 2010年の時に川沿いの5階以上のマンションがどこにあるのかの一斉調査をした。それ使ってください。直轄区間青梅まで。

(委員長)

- ・ うちの青木君のドクター論文はそれでやった。ほんとは東京都の景観条例でやっているような景観基本軸にすればね、コントロール出来るのですよ、東京都の景観条例はそうなっている。
- ・ ではご意見が無いようでしたら、事業報告書についてはここまで。ご意見があった部分については工夫してやってください。

## ●川崎市多摩川プランの改訂に向けて

(委員長)

- ・では来年度の新多摩川プランについてのご意見を頂きたい。
- ・27年度中に改定する、原案を出してご意見を頂く。今日は、今お感じになっている事を発言してください。今後の新しい多摩川プランをどうするかは注文です。

(加藤委員)

- ・HPとか宣伝部分を入れてほしい。10~12ページのような事をやられていると思うが、30~50代に、こういう良い活動が伝わってこない。関心のある人は高齢者か、児童かのどちらかで、中間の年代が無い。その理由は宣伝が我々世代に届いていない。そういう所で、HPの活用とか市の方からアクティブに伝える施策を検討してほしい。私は多摩川プランに参加して理解が深まった。多摩川ってすごいのだなと冊子を見て思ったので、他の人に知ってもらいたい。川崎って公害のイメージしかなかった。知ってもらうための宣伝努力が必要だと思う。私はNPOでIT系技術を活かし、子供たちの育成を行っている。やはり宣伝が難しく、ヘタ。そこを少し変えて行くとうまく回っていくのではと考える。若い世代、親の世代にも多摩川の良さを分かってもらえるようなアクティブな施策が必要。HPを作るだけではなく。

(委員長)

- ・広報の充実だけではなくて、市民化するという事ですね。多摩川を市民の物にする。アクティブなプログラムと、情報を伝えるという事。広報と言うと事後でやるイメージだが、多摩川の事を伝えると、それが参加を呼ぶ。だからプランの中核にこの事が必要。だから全戸に冊子が行く位の事もやる必要がある。横浜も町田も無いけれども、川崎市民にはこのような冊子が来て、鶴見川も相模川も色々あるけど、川崎は違うなど。市民のプライドってそんな物であろう。さっきの市長だったら乗りそうな感じだから、これ持って行って、齊藤さん連れて行って、ボランティアで頑張ったと言う事で、これみんなに配りたいと、それはぜひ進めたいと。それ位の事だと思う。

(北島委員)

- ・私は、防災です。セクション毎に分かれて役所でやっていて、ここで言う事かと思いましたが、多摩川と言うと、これかなと。多摩川に馴染んでいたつもりですが、「川の先の川崎」と認識しました。

(委員長)

- ・防災減災ですね。防災計画は出来ているが、多摩川プランは全てを含むと言う前提でやっている。福祉、教育、ありとあらゆる事を飲み込もうと。多摩川にかこつけて何でもやれると言う風になっているから、市民が今関心がある事を取りこんで行く事が大事だと。

(齊藤委員)

- ・加藤さん、おっしゃったようにHPを充実したい。今、HPでせせらぎ館を知る人が多い。HPで多摩川はどうかを知ろうとしている。HPページを見ましたと言う人が多い。で、HPを充実していこうと考えている。多摩川プランとしては、流域で色々な事をやっているの、ネットワークで繋げるような、人を多摩川へ寄せていくような動きがプランの中に出て来ると良いなあと、単独でそれぞれがやっているだけしかなくて、他との繋がりが薄い。情報誌

もそういう繋がりを持とうとして始めた。せせらぎ館だけやっていたら良いんだ、では無く  
て、流域全部をネットワークで繋ぐような。

(委員長)

- ・ 色々な団体のネットワークがあったはずだが、今は無いのか。

(事務局)

- ・ ありますが、色々なNPO法人が立ち上がっていて連絡調整がついてない。

(委員長)

- ・ みんな平等で、せせらぎ館の命令は聞かないのか。

(事務局)

- ・ 多摩エコは12年経って独り立ちの状況、南河口部とか中間部でも立ち上げていますので。

(委員長)

- ・ 繋げるような組織を作れば良いのか。

(事務局)

- ・ ネットワークと言うか、私達が繋げるような形で情報交換をしたいと考えています。

(委員長)

- ・ 市民活動を統合する必要は無いが、緩やかなネットワークで、情報交換、議論も出来るし、一緒に事業もやれるし、まさに川崎市民がどうやって多摩川に向かい合うか、という事を促進する事業だから。

(齊藤委員)

- ・ 3分ほど良いですか。多摩区でアイデアコンテストをやって、その中で、せせらぎ館を道の駅に、と言うアイデアが特賞になりました。

(事務局)

- ・ 川の駅ですね。

(齊藤委員)

- ・ 自転車乗っている人がせせらぎ館に来ますので、自転車部隊をつかもうかな、多摩川に散策に来た人たちをつかもうかなと、市民に開放的な施設を提案された。28日に多摩川シンポジウムがあるので、そこで、取り上げてやってみようかなと思っています。

(委員長)

- ・ 川崎市内に道の駅があるのか。

(事務局)

- ・ 無いです。

(委員長)

- ・ 大体田舎が多い。川の駅はどこかでやっていた。

(山道委員)

- ・ 中身が充実してない、ネットワークが出来ていない、という事ですが、発想としては国土交通省でやろうという人がいて、あと大分には水の駅があるが、道の駅みたいな物販のような機能は無い。今のせせらぎ館も川の駅の機能は果たしている。

(齊藤委員)

- ・ 一般住民の方がどのような考えを持って多摩川に出て来るのかと言う事ね。僕らの考えだと、あれはだめこれはダメになってしまうので。

(田上委員)

- ・ 物販は利根川下流の佐原の所にある。今の香取市の所にある。スーパー堤防の上に情報発信基地、物産販売がある。

(齊藤委員)

- ・ 我々が考えているのは、高価な自転車が多い為、施錠して止められて、多摩川を散策して下さい、というのを、どこからか助成をもらって作りたい。物を売るとか収益を上げるとかではなくて。自転車には触れない。動かすとオーナーが怒るので。自転車を格納するものを作って、一休みするような、散策するような道の駅、川の駅を作りたい。シンポジウムはどんなのが出て来るかわかりませんが、出来る物出来ない物あるでしょうから。

(委員長)

- ・ 今の話は、せせらぎ館のイベントじゃなくて、多摩区でしょう。

(齊藤委員)

- ・ 多摩区のイベントで特賞になったのです。

(委員長)

- ・ 道の駅は、道路絡みだから。

(齊藤委員)

- ・ せせらぎ館の敷地をもう少し開放しろという、住民からの希望なのです。

(委員長)

- ・ 今の場所もせせらぎ館というご指定なのか。

(齊藤委員)

- ・ せせらぎ館を道の駅、川の駅に、というイメージです。我々も身構えたのですが。

(委員長)

- ・ 道の駅だと自動車だが、多摩川だとそうはいかないから、自転車、歩行者か。

(山道委員)

- ・ 川の駅の協議会が出来て、その中ですか。

(田上委員)

- ・ PFI でやっている

(委員長)

- ・ とりあえず議論だけやって頂いて。やったら良いのじゃないですかね。

(齊藤委員)

- ・ とりあえず、夢です。

(山道委員)

- ・ 作る、整備する、活用するというのが多い。当初の目標にもあったように、景観を守る、生き物の賑わいとか、あったと思うが、良い物、光る物、多摩川らしさ、いっぱいあると思う。それらを守って行くというのも、プランの大きな柱だと思う。生物多様性の話が出て来ているので、使いながら、守る。バランス取る事が大事だと思う。次の改定の時には、そこら辺に力を入れて欲しい。それから、この会議が多摩川をどうしたいのか、共通の認識が無いので、いろんなアイディアも出しにくい。プランのチェックの前に、それを議論した方が良いと思う。川崎にとっての多摩川のあり方、多摩川の何に着目するか、とか。

(委員長)

- ・ タイミングを見て、市民参加型のシンポジウムをやらないとね。多摩川に何を期待して、どこで参加出来るか、参加する気があるかとか。

(佐藤委員)

- ・ もっと PR が必要だなと思います。多摩川は綺麗になって、アユやウナギも遡上し始めており、良くなったと PR すれば、より身近に感じてもらえる。具体的に企業としては川崎の環境充実祭も今回 5 回目で、私は 3 回目だが、その中では我々は多摩川から水をもって、戻したりしているが、新しく設備として、窒素の基準で 1/16 とし、多摩川の水より綺麗にして、汚さないようにしている。環境活性コンクリートというので、藻などを早く育成し、魚が住むところを確保する。また CSR 部で水草(アマモ)を入れてやって行きましょう。そう言った事を広げて行く事も、企業として出来る事を。自然を若い方々に、私もそんなに綺麗な清流だとは思っていなかったのですが、もう一度綺麗にする事によって、汚したくなくなる、みんなでそれを守っていこうとする、財産なので、で、水鳥なんかも来たりして、大師の方では葦がすごくなっているので、生物多様性とか、重要な環境の場所という事、みんなを守って行こうと、出来れば良いかなと。我々としてはそういった部分でお力になれば。規制があると思うが、環境活性コンクリートを置かせてもらったりして。今場所が無いので、八景島の所で、木村先生とかに入ってもらって、シーサイドラインの柴漁港の所に種を撒いて、芽が出た所です。アウトレットの鳥浜の所に植えさせてもらおうとしています。多摩川の河口で出来れば。出来る所を繋げて出来ればなあと思っています。

(畠山委員)

- ・ 生物多様性をプランの 1 つの柱にしてもらいたい。生物多様性地域戦略の中で多摩川を主要なコリドーとして位置付けていますので、どうやって位置付けたら良いのかと言う事をきちんと考えて行くべきだと思います。河口の方は葦原があって、水鳥が居て、魚の放流とかがあって、川へ行くと人のための施設はあるが、生き物のための場所が少ない、多摩川に行けば、スポーツも出来るが、生き物とも触れ合える場所として位置付けて整備して行けば良いのかなあと思います。

(田上委員)

- ・ 国の方で、河川管理レポートとして HP 出していて、河川の利用者がどの位とか、後、ゴミの話も結構ありまして、ゴミがどこに捨ててある、というような事もあって、そう言った面で協力出来ればと思っています。後バーベキューの事については、県とか政令指定市の方が研修やる時に、川崎のバーベキューの場所を見学してもらっているのですが、注目して見られていますので、是非うまい具合にやって頂ければと。

(委員長)

- ・ 一つは 25 年度の、もし可能なら、川崎市民みんなでどうだ、というのをね、たぶん市民意識調査が必要。多摩川に対する意識、関心の現状、多摩川プラン以前の、3 つ位時点を持って、比較してだいぶ進んで来たとか、それから色々なイベントでの参加率も高くなって来たとか、この時点で少しやっておいて、本格的には今度の改定版の時にプランの総括をやるわけですが、これをやる事でどうだったという事で、足りない物、時代に要請されている物、これを加えて作るという事が常識ですから、それをやる。それから山道さんが言われた、多摩川はどのような物であるべきか、という話をね、加える話なので。このプランの時もそ

れなりの議論はした筈ですが、例えば、高層ビルのお話をしましたけれど、この時点で殆ど無かった。高層マンションは百数十mでしたっけ、あれが出来たと言う事は、今後どんどん出来て来る。東京オリンピックで建設費が上がっているから、やらないかもしれないし、価値が上がっているからやるかもしれないし、東京都の景観計画の時は隅田川、多摩川、江戸川はオープンスペースとして極めて重要で、堤防で切れるものじゃないよと、堤内地側に一定の幅で河川に影響を与えるのだと、高い物を立ててはいけないのだ、とすべき。今は既存不適格でやっておいて、50年後にボリュームアップ出来ないようにする。そういう構想で指針が出来ているのだ、それを運用している。ただし多摩川景観基準軸だけは議会が批准しないのだよ。ここはフロンティアでこれからまだやれる所だと、業界は思っているかもしれない。くわしくは都の景観の運用を見て下さい。今言いたかったのは多摩川はどういう物であるべきか、という話。多摩川が川崎の一部だと言う事を考えると、川崎側だけ高度制限掛ければ良い。簡単には50mか30mか知らないけど。東京の23区は高さ制限は当たり前になっている。大きな川が前にあったらいくらでも出来るのです。川のオープンスペースとしての命を殺してしまう事です、そういう意味で極めて大事なので、問題意識を持ってほしい。つまり川崎市市域の上流部から河口までの間を、多摩川とどう付き合うのかと言う事を、多摩川への眺めを私物化して良いのか、そのビルの人だけが見るのですから、大気の流れ、生き物の移動とか、これを進めると、多摩川を中心としたビオトープネットワークを作ると言う事なのです。生物多様性もそうなのですが、緑のプランは多摩丘陵中心にやっているのだ。川崎の行政では、多摩川、ニヶ領、多摩丘陵の水と緑が通っているのだ、横に川が入っている。これは生き物のネットワークなのですよ。さっきのモザイク状に保全緑地が入っている。そして多摩川に立派なコリドーが入っている。それ全体としてビオトープネットワークなのです。ビオトープネットワークは連邦レベルでやっているドイツは別で、日本はやっていない。生物多様性の事は言っているけど口で言っているだけで本当のビオトープネットワークを構築しようとしていない。多摩川プランはまさに土地買わなくても出来ている、繋ぐだけなのだから。すでに緑地保全を丁寧やって来た、これはすぐに効く訳ですよ、図面さえ描けば。それを意識して今度の目玉の一つにしたら良いのでは。生物多様性は今プラン作っている訳ですから、そのまま重ねて、多摩川プランでも位置付ける。

- もう1つは、バーベキュー、生態系サービス、要するに自然の恵みですよ。多摩川と付き合う事によって、防災という事もある、学校教育、環境問題、その中に「食」がある。あるいはアウトドアレクリエーション、これは今まで、分離していた。あるいはエコビジネスね。さっき佐藤さん言われた事は大事な事で、柴漁港なんて、のどかな漁師町だった。文化的景観だった。そこに藻場をやると、サイエンスパークがあるけど、川崎の発展は研究所で持って来たのですよ。多摩川を含めてサイエンスの舞台にもなる。これが21世紀的な重要なポイントだと思う。日本は人口は減って行って、経済の発展は厳しくなって行く。その時に頑張れるのはサイエンスなのだ。企業の研究所がこれだけ立地した都市は、多摩川そのものもサイエンスの場に成り得るだと、今まで学習教育の場でしかなかったけどね、もっと発展させるとエコロジカルな社会ではそういう事が必要なのだ。水の問題は多面的に言うでしょ、水と緑と土の空間は自然科学の舞台な訳だから、そういう物にも位置付ける。川崎の将来像を描くにはそういう壮大な物が無いと、弱いと思う。別の言い方をすると企業の研究所があるので、そういう企業の方たちに参加してもらおう。そういう新しい時代の要請を受け入れる

ような事まで広げてみると。

- あとはHPの充実とか、皆さんおっしゃる通りで頑張っ、このプランが日本の自治体の先駆けをやったって、バーベキューの始末も、サイエンスに使う物にしても、市民の活動のフィールドになるとか、子供から老人まで繋ぐとか、今の社会の不可欠な要素を全部引き受けて、全面的、根本からじゃないけれど、大きな都市環境問題を全部引き受けて、それを問題解決する方向性を出せているのだ、相当努力している、そういうプランだ、と言う事になれば、カッコ良いと思います。そういう高い志が無いとね。市長も若い人がなったのだから、若い発想が無いといけない。

(事務局)

- ありがとうございます。改訂の準備に入ってきた所でございますので、山道委員の御意見にあったように多摩川のあるべき姿について議論して行くと言う事、今までの多摩川の施策を評価するか、忌憚ないご意見を賜りたいと思います。